

新型コロナウイルス感染症流行下での 入院生活におけるリスクと対策について

現在流行している新型コロナウイルス(概ねオミクロン株)感染症は、非常に感染力が強く、横浜市内においても多くの市中感染者がでてきている状況です。

当院では、職員が入院患者様への対応をさせて頂く際には、マスクの着用・頻回の手指衛生等感染予防対策の徹底、職員の体調管理として1日3回の検温及び軽微な症状でも所属長へ報告の上で、出勤見合わせ等の対応および抗原検査・必要時 COVID-19 遺伝子検査を実施しております。また、職員の院外における活動につきましては、同居家族以外の外食を控えることを含めた外出自粛要請をいたしております。しかしながら、職員も最低限の家庭・社会生活をおこなわざるを得ない状況であるため、出勤職員の無症候状態での家庭内・市中感染を完全に排除することは難しい状況であると考えられます。出勤職員においては前述のとおり感染対策を実施した上で入院患者様へ対応をさせて頂きますが、現状のウィルスの感染力から、結果として入院患者様への感染リスクを完全に排除することは困難である可能性が考えられます。また、日常生活における患者様に対するケア及び積極的なリハビリテーションの実施にあたりましては、下記のような理由から感染のリスクが生じることが考えられます。

- ・日常生活において、患者様がマスクを外した状態での入浴介助・食事介助を実施いたします。
- ・1日数回、合計2～3時間のリハビリを実施いたします（複数名のセラピストが担当いたします）。
- ・全身を抱き抱える等の濃厚な補助・身体接触が生じる場合があります。
- ・マスクを外しての言語訓練、摂食・嚥下(食べる・飲み込む)訓練を実施する場合があります。
- ・患者様ご自身が必要時以外にマスクを外してしまう可能性があります。

例：認知症、高次脳機能障害の患者様等

このような状況下ではありますが、当院では入院患者様へ、日常生活上十分なケアおよび最大限効果的なリハビリテーションを提供させて頂きたいと考えておりますので、入院患者様ならびにご家族様のご理解を頂けましたら幸いに存じます。